

品川区教育委員会会議記録

平成 22 年 第 11 回 定例会

場 所 教育委員室
期 日 平成 22 年 9 月 28 日
開 会 午後 2 時 00 分
閉 会 午後 3 時 17 分

出席委員	委 員 長	安尾 久子
	委員長職務代理者	細川 珠生
	委 員	市川 信之助
	委 員	鈴木 敏夫
欠席委員	教 育 長	若月 秀夫

出席職員	教 育 次 長	市川 一夫
	庶 務 課 長	田村 信二
	(学務課長	教育次長事務取扱)
	指 導 課 長	冠木 健
	小中一貫教育担当課長	和氣 正典
	品川図書館長	小川 陽子

議事運営および 委員長、教育 長報告事項等	<ul style="list-style-type: none"> 署名委員に市川委員、鈴木委員を指名。 日程第2 報告事項2「事務局職員および学校職員の任免等について」品川区教育委員会会議規則第16条の規定に基づき非公開の会議とする。
-----------------------------	---

件名	日程第1 協議事項 教育委員会事務事業の点検および評価について
担当課説明等	(庶務課長) ・ 資料に基づき説明
委員質疑要旨	<p>(委員D)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員の健康管理について、今年度の状況を聞きたい。 <p>(委員A)</p> <ul style="list-style-type: none"> 在職死亡について、兆候はあったのか、またそれを把握していたか。 <p>(委員D)</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康診断・人間ドック等の結果で少し数値が高めであるような場合、自ら健康管理を徹底していくという、それぞれの職員の意識の改革も必要だ。 管理職や指導主事を始めとする事務局職員の健康管理と指導についてもお願いしたい。 <p>(委員C)</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康診断については特定の場所で行うのか、学校に検診車などを派遣するのか。 検診車が派遣される方式ならば、受診することがより容易になり、受診率もさらに向上する。95%という数値は決して低くはないが、100%を目指す方策として検討しても良いのではないか。 <p>(委員D)</p> <ul style="list-style-type: none"> 検診車の派遣は費用の面もあると思うが今後検討されたい。 <p>(委員B)</p> <ul style="list-style-type: none"> 点検・評価を実施する趣旨を改めて確認したい。 点検・評価の趣旨から考えると評価の結果により予算編成に反映させられることがポイントとなると思う。 区全体の評価の中で他部署との調整などで評価結果が変わってしまった部分があるが、これでは委員会としての評価を出す意味が薄れてしまうのではないか。次年度への課題としてこの点については検討してほしい。 評価そのものに仕組みについて、この評価は何を指標にして評価しているかが明確ではない。 事業の目的、実績を積み上げて評価を行ない、今後反映させるべきものだと思うが、ここで示されている指標は事業ごとにまちまちであり、また評価の判断として適切でないものもある。 部活動の位置付を今後どうやっていくか考えていくべきである。少子化で部活動が成立しない学校も出てきているし、教員の負担も大きい。外部の指導員を活用するしないに関わらず、部活動の位置付けを学校生活の中でもっと高めるべきである。学力以外の生活指導も大切なことだ、事業として拡大の方向ではなくとも、積極的に行っていただきたい。 <p>(委員A)</p> <ul style="list-style-type: none"> 区全体の調整の中で評価が変更になったものについてもう少し説明が

	<p>ほしい。</p> <p>(委員B)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 委員会の意向は反映されているとはいえ、評価結果そのものが変更となっているものについては、委員会としてその結果一つひとつを理解し、納得する必要はあると思う。 <p>(委員C)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 部活動については指導を担当する先生の影響が大きい。指導をする先生方の努力に応えられるサポートを行ってほしい。 <p>(委員B)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ すまいるスクールと大学との連携は良い取り組みだと思う。安全で有効な教育の場となるように、より、すまいるスクールが充実していくとよい。 ・ 特別支援教育のニーズは十分ある。事業評価や予算措置の視点だけではなく、教育委員会として今後より力を入れていく、というアピールが必要だと思う。 <p>(委員A)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業No66「外部評価者による学校経営力の強化」について、現時点での実施状況などを聞きたい。 <p>(委員C)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外部評価は重要な制度である。学校をより良いものにしていくために、引き続き充実させてほしい。 <p>(委員D)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外部評価は学校にとって刺激があり、良いことだ。 <p>(委員A)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外部評価を積極的に進めてほしい。評価者の方が学校の良いサポーターとなってほしい。 <p>(委員D)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業No58「小中一貫教育の推進」について、平成18年度から小中一貫教育を推進しているが、施設分離型の小中一貫教育などまだ課題がある。新しい視点での推進を検討する必要もあると考える。 <p>(委員A)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業No50「教職員研修」について、人材育成のために研修は大切な事業である。具体的にどのように進めることを考えているのか。 <p>(委員D)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業No46「教職員住宅の維持管理」について、今後見直しをしていく方向ではあるが、教職員住宅のニーズがあるので、それを踏まえた見直しを進めてほしい。 <p>(委員C)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業No72「帰国児童・生徒等の適応指導」について、事業の実施状況と今後の見通しをうかがいたい。
事務局説明	<p>(庶務課長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員の健康管理状況について、今年度は事務局の課長、学校用務の職員の在職死亡があった。いずれも健康診断、人間ドック等は受診していた。医学的な限界はあるが、在職死亡をなくしていけるよう、きめ細かいケアをしていく。 ・ 事業者として健康診断や人間ドックを受診させるに留まらず、受診した結果に応じたフォローや働きかけを重点的に進めていく必要がある。このため、事務局に専門職である看護師も配置している。

健康診断の受診率は全体で95%程度となっているが、学校ごとに確認してみると、受診率の低い学校もあり、校長にも指導を徹底していく。

また、健康診断では把握できないメンタル面での病気も全国的に増加傾向にあることから、管理職が率先して声かけを行い、精神疾患の兆候を見逃さずに、専門の医療機関に早めにつなげていくようにしている。

- ・ 在職死亡の兆候については、過去のものも含め健康診断結果等を確認したが、兆候といえるものは見当たらなかった。
- ・ 健康管理の意識について、健康管理は自己管理が第一であるという原則の徹底も大切だ。変調を自分で見逃さない、自ら医療機関に受診に行くなどの対応が何より大切だ。

(指導課長)

- ・ 指導主事等についても、超過勤務が恒常化しているが、繁忙期や緊急対応は除き、健康のためにメリハリをつけて早めに帰宅する等の努力を徹底していく。

(庶務課長)

- ・ 健康診断の実施場所について、基本的には委託先か区庁舎で実施する。
- ・ 点検・評価の目的について、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正により教育委員会の責任の明確化を柱として平成20年度から行っているものである。
教育委員会が教育の専門的立場から評価を行ない、事務執行に反映させていくという趣旨である。
今年度から活用している点検・評価は区全体で行うものと一体化させ、この評価結果を予算に反映させる仕組みである。しかし、教育委員会そのものに予算編成権がないため、教育委員会の評価がそのまま予算に反映されることが難しい部分はある。区全体の評価の中での評価基準に添って評価結果が変わった部分はあるが、これは評価が変わったのではなく、全体の基準に合わせたものが大半であり、ほぼ教育委員会の意向に添った評価内容になっていると考えている。

(教育次長)

- ・ 教育委員会の評価と区全体の評価の並立と調整の問題について、同一の評価システムを使って評価する意味と目的は、今後の施策にどう活かして行くか、どうあるべきかを評価・判断することであり、評価の結果が何点かということではなく、各委員の声をいかに区の施策に反映していくかということが重要だと考えている。
区の評価制度と一体化したことにより、教育委員会の審議結果と区全体の他部署との評価のすり合わせは当然行なったが、評価の尺度を合わせたことによる変更は、評価の数値が変わったとしても、委員会の考えを軽んじるものではなく、その考えを反映できていると考える。
確かに、事業の必要性などについて、教育委員会と区全体と判断の違いがあり、評価が変わったものもあるが、この評価に続いて予算要求を行っていく中で委員会の意見や考えを踏まえた予算要求をしていく。
予算については当然予算編成権を持つ区長が査定を行うものであるが、この査定判断も委員会ので審議を十分踏まえて行うものであり、委員会が評価を行なうことに十分意義があるものだと考えている。
- ・ 厳密な評価と評価指標について、事業の評価に具体的な指標を用いるべきであるのはおっしゃる通りである。しかしながら、それぞれの事業の成果を判断するにあたって単純で統一的な指標を設定することは難しい。数年前に行った行政評価は複雑にその成果を測るよう努めたのだが、相当の時間と手間をかけて評価を行なっても、成果そのものを数字だけから単純に測ることができなかつた。評価にかかる手間とコストも合理性から考えなければならない面がある。そういう意味で、今回の行政評価は簡便な手法で評価を行なうようにしている。
また、評価方法は今後必要に応じて検討を続けていく予定となっている。

(庶務課長)

- ・ 評価結果の変更について、変更の主な理由は、前回の教育委員会で説

	<p>明したように主に評価の尺度が区全体の中で統一された判断基準に当てはめたもの、他部署との類似事業・関連事業ですり合わせを行ったものである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 評価を変更した部分については次回以降お示ししたい。 <p>(指導課長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 部活動の位置づけについては委員ご指摘の通りであり、事業No65「合同部活動の実施」なども行っており、様々な形でサポートしていきたい。 ・ 中学校に限らず、小学校においても放課後の活動に取り組むことは子どもに良い影響を及ぼしている。部活動指導の人材の活用も含め、環境整備について積極的に検討していく。 ・ 事業No66「外部評価制度による学校経営力の強化」について、外部評価は地域の方に評価をしてもらう「校区外部評価」と外部の第三者に評価をもらう「専門外部評価」の2つを行っている。専門外部評価については、年度ごとに順次行ってきており、今年度全ての学校が評価を受け終わった。 <p>(小中一貫教育担当課長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 分離型小中一貫校の扱いについては、それぞれの特徴を出していくなどの工夫が必要であり、次の段階へ向けて検討を進めているところである。 <p>(指導課長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員研修について、それぞれの職員の段階に応じた研修の構築と、個々人の状況に応じた研修の構築をそれぞれ必要に応じて見極めながら、内容を具体的に充実させるよう検討している。 ・ 教職員住宅について、需用と供給の兼ね合いもあるが、区職員の職員住宅との関係も踏まえつつ検討していく。 ・ 帰国児童・生徒の適応指導について、対象は概ね60～70人くらいであり、山中小、東海中、御殿山小などで実施している。 <p>(教育次長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 帰国児童・生徒の適応指導について、今後の見通しとしては、事業実施の効率性や代替性に検討の余地が十分あり、より良い結果が出せるよう見直していく必要がある、今後検討していく。
委員意見要旨	(質疑に含む)
議事結果	了承

件名	日程第2 報告事項1 国民読書年・秋の図書館フェアについて
担当課説明等	(品川図書館長) ・ 資料に基づき説明
委員質疑要旨	(委員D) ・ 六行会ホールでの講演会は定員が250名程度であると思うが、定員オーバーになったりはしないか。
事務局説明	(品川図書館長) ・ 毎年、事前申し込みの形をとっており、例年定員ちょうどくらいの人 数で開催できている。
委員意見要旨	特になし
議事結果	了承